

# 平成30年度学校評価自己評価表

# 福島県立福島南高等学校

学校経営運営ビジョン		自己点検（実施状況と評価）				アンケート集計結果			分析と課題			
重点努力事項		4段階評価 4◎：80%以上達成 3○：60%以上達成 2△：40%以上達成 1▼：20%以上達成				評価点	平均	判定		4段階評価		
										生徒	保護者	教職員
文 理 科 目 標	1 難関大学、国公立大学等への合格者の増加 ・国公立大学等の合格者数の増加を目指します。 ・センター試験の受験を奨励するとともに、各種試験の受験指導に努めます。	進路決定者数(2/6現在):国立大3,私大23,私短5,看医専4,専門3,就職2,未定38 ・計画的に課外授業ならびに模擬試験を実施し、基礎学力及び進学に必要な学力の定着を図った。 ・少人数、個別等、状況に応じた必要な指導を行い一定の成果を収めることができた。 ・各種オープンキャンパス等への積極的な参加により、個別のニーズに応じた進路選択ができた。				3.0	3.0	○	3.1	3.1	2.8	・学習意欲のさらなる向上を目指し、学年と進路指導部との連携を密にし、外部模試など進路目標の実現に必要な情報の有効活用を図る。 ・今後も進路指導部の企画を活用しながら、早期の進路意識の形成と進路目標の決定、さらにはその実現に向けた取り組みをサポートする。  ・文理科の特色作りという観点からも、今後ともサイエンスセミナーを継続的に実施するとともに、学年・教科と連携を図りながら計画的に課題研究を実施し、その充実にも努める。
	2 総合的、専門的な学習の深化 ・授業やサイエンスセミナー等を通して、文理の学問的な探究心を伸ばします。	・サイエンスセミナーを通して、探究的な学習に取り組み、適切な指導のもと一定の成果をあげることができた。 ・放課後の時間なども有効に活用しながら、教科の協力を得て課題研究の時間を確保することができた。				3.0						
国 際 文 化 科 目 標	1 語学力を生かした難関大学等への合格者の増加 ・難関大学等の合格者数の増加を目指します。 ・英検2級の合格者を増やし、仏検、GTEC、TOEIC等に積極的に挑戦させます。	進路決定者数(2/6現在):国公立大1,私大23,看医専3,専門5,未定10 ・英検第2回までの合格者は、準1級1名、2級26名、準2級51名であった。二次試験対策の面接指導を丁寧に行い、第2回の二次合格率は100%であった。また、現3年生の外特枠入学生4名中3名が、資格取得等の実績により難関私大・公立大に合格した。 ・仏検の合格者は、5級25名、4級9名であった。課外等の対策を実施した。				3.5	3.8	○	3.4	3.3	3.0	・2級合格者を増やすため、二次試験対策の面接練習だけでなくWriting等の対策も検討する必要がある。またGTECの受験も勧めると同時に、受験したGTECの結果を分析し、4技能をバランスよく身につけさせる具体的対策を検討し計画する。  ・2年次のBritish Hills研修では事前の準備や打合せを密にして、生徒の実態に合うより高いレベルの研修が出来るよう努める。 ・KGS参加生徒の授業の補習をどのように実施するか、学科以外の部署とも相談して検討する。また、KGSの福島訪問に向けて具体的な話を進める。
	2 国際理解教育や国際交流事業の充実 ・国際理解セミナーやKGS姉妹校交流などの充実に努めます。	・British Hills研修では体験学習を通して英国文化に触れ、英語学習意欲を高めることが出来た。 ・KGS姉妹校交流では生徒が積極的に活動し、大変有意義な経験となった。参加生徒2名を含む2年生3名が県高校英語プレゼンテーションコンテストで優秀賞(第2位)を受賞した。 ・国際理解セミナーではルワンダ教育支援NPO法人の方を招き、グローバルな視野の大切さを学んだ。				4.0						
情 報 会 計 科 目 標	1 高度な資格取得を生かした就職、進学の合格者の増加 ・高度な専門資格を取得させ、就職、公務員、国公立大学に合格させます。 ・商業関係の各種競技大会へ積極的に参加させ、全国大会出場を目指します。	進路決定者数(2/6現在):国公立大4,私大14,公短2,私短1,看医専3,専門9,公務員13,就職29,未定5 ・情報処理検定や簿記検定では、年間計画の通り検定前に養成講座を実施し、例年並みの合格者をだすことができた。 【1月】全商簿記1級53名(昨年度57名)、2級70名(昨年度74名)、全商情報処理1級プログラミング部門78名(昨年度71名) 【9月】全商情報処理1級ビジネス情報部門67名※1月を含む(昨年度69名)、2級プログラミング部門74名(昨年度67名)				3.0	3.0	○	3.4	3.3	3.4	・全商、日商の簿記検定をはじめとして、出題区分の改定や出題形式の多様化など、検定試験の難易度が上がってきているため対策を講じる必要がある。 ・次年度も生徒の進路実現のため学科一丸となり、よりきめの細かい指導を図りたい。 ・次年度も高度資格取得に取り組みとともに、外部講師を効率よく活用して社会で活躍できる生徒を育成する。  ・地域づくりセミナーの経費をクラス費から捻出しているが、ここ数年の課題となっている。早期に解決策を考える必要がある。 ・社会において主体的・合理的に活躍できる生徒を育てるため、次年度も様々な形でアクティブラーニングを取り入れた活動を実施したい。
	2 地域産業を担う人材育成教育・事業の充実 ・地域づくりセミナー等を通して課題意識を高めます。	・地域づくりセミナー・年金セミナー・租税教室など外部講師を招き、有意義な学習の機会を得ることができた。 ・ビジネスコミュニケーション検定にほぼ全員合格を果たしたり、社会人としてのより実践的な学習を実施することにより、ビジネス社会に必要な知識・技術を身に付けさせることができた。				3.0						
共 通 目 標	1 生徒の生活習慣を確立させ、規範意識を高めます ・あいさつや制服の正しい着こなし、遅刻防止、全員清掃等の生活習慣を確立させます。 ・いじめ等の非行防止を徹底します。	・後期中間までの遅刻者数は延べ374人。遅刻者数が前年より半減しており指導の成果が出ていると思われる。冬季においても時間の余裕を持った行動を促したい。制服の着用に関しては概ね良好である。(生徒指導部) ・概ね良好であるが、トイレ拭きペーパーが切れても補充しなかったり、芯が残ったままになっている。(厚生部) ・6月9日11日に「学校生活アンケート」を実施。アンケート結果を踏まえ、全校集会での指導、また、学年による指導を行った。アンケートにより早期発見となった事案があり、適切に対処することができた。(生徒指導部)				3.0	3.1	○	2.6	2.6	2.8	・生徒のさらなる生活習慣の改善を目指し、継続して遅刻指導等を行う。 ・トイレ使用マナーについての張り紙をしたが、さらに先生方に指導していただく。ポトルキャップ入れ、雑巾スタンド等清掃用具の点検・整備に努める。 ・次年度も同様に年3回程度学校生活アンケートを実施予定。いじめ等の防止、早期発見に努める。 ・来年度も生徒の意見を反映した活動を取り入れ、生徒達が自信を持って活動できるよう支援していく。 ・調査研究の発表の場を学校公開時等でも設けることができないか検討する。 ・進路決定への影響を避けるには、顧問と連携しながら部活動引退の時期が遅くならないよう指導する必要がある。 ・特に新入生への交通安全指導に重点を置き、全校集会や自転車走行一斉指導などで年間を通して事故がなくなるように指導の強化を図る。 ・さらに勧告を続け治療率を高めるよう努める。 ・各学年からの要望に応じた実施時期とテーマを設定し、有意義な講話になるよう工夫する。
	2 生徒の自主的活動により、学校生活の充実に図ります ・部活動の自主的な活動を充実させます。 ・委員会活動を充実させます。	・図書館だよりの先生方へのインタビューや、おすすめ本紹介の展示等、生徒達がアイデアを出し合い、進んで活動する様子が見られた。(図書視聴覚部) ・生徒保健委員会の健康調査アンケートの発表は大変立派であった。(厚生部) ・最上級生として、各種活動に積極的に取り組んでいた。(3学年)				3.5						
	3 生徒の安全・防災意識と健康意識を高めます ・交通安全意識を高め、自転車事故等の絶無を目指します。 ・教育相談や保健指導の充実に努め、生徒が自らの健康を保持増進する力を高めます。	・全部で5回の交通安全指導、計10日間、また下校指導6回実施。春期に自転車事故が重なって起きてしまった。(生徒指導部) ・虫歯のある生徒は43名と少ないが、治療済みの生徒は2割程度で未治療が多い。(厚生部) ・1・2年生対象の「思春期講話」を実施し、アンケート結果ではどちらも好評であった。講話前のアイスブレイクも効果的だった。(教育相談部)				2.8						
	4 生徒の自ら学ぶ態度を育成します ・家庭学習や朝自習に積極的に取り組ませ、自学自習の態度を養います。 ・総合的な学習の時間や課題研究での探究的な学習への支援を充実します。	・教科担任と連絡を密にし、積極的に提出状況を把握し、指導を繰り返すことにより効果は上がっているが、まだ継続的な指導が必要である。(2学年) ・定期調査以外での学習サイクル確認がやや不足していた。学習時間の定着も個人差が大きかった。(1学年) ・サイエンスセミナーを通して、探究的な学習に取り組み、適切な指導のもと一定の成果を上げることができた。(文理科)				3.0						
	5 読書活動と図書館利用を推進します ・読書のPRの工夫、授業やHR等との連携を進めて、図書館利用や読書量の増加を図ります。	・一日平均入館者数(4月～12月)は41.9人、一人当たりの年間貸出冊数(4月～12月)は4.5冊。前年度よりはそれぞれ減少したが、目標とする利用頻度は達成することができた。(図書視聴覚部) ・教科書で学んだ作品と関連した作品を、随時紹介した。(国語科)				3.0						
	6 体験活動を通して豊かな情操や国際理解を養います ・芸術鑑賞会や修学旅行等の体験活動を通して、生徒の情操を高め、国際的な視野を広めます。	・事後アンケートでは9割近くの生徒が「楽しめた」と回答しており、これをきっかけに他の古典芸能も鑑賞したいという感想も多かった。(図書視聴覚部) ・プリティッシュヒルズ研修やKGS姉妹校交流では、事前学習、事後の発表も含め、様々な体験学習を通して、有意義な経験にすることができた。生徒の英語学習意欲を高めることができた。(国際文化科) ・民泊を中心とした事前準備や発表では、生徒が主体となって活動することができた。また、平和を尊ぶ心と異文化を理解し尊重する態度をもった生徒の育成を目指して指導した。(2学年)				3.5						
	7 各学科の特色を生かして創造性を養います ・各学科の特色ある教育活動を充実させます。 ・各学科の学習成果を共有させ視野を広げます。	〔各学科の目標2参照〕				3.0						
	8 授業等の充実に努め、学力向上を図ります ・基礎基本を定着させ、応用力を高めます。 ・教員相互の授業参観、授業研究を充実し、教科指導力の向上に努めます。	・教育事務所による学校訪問や「南高へ行こう」での授業公開に合わせ、アクティブ・ラーニングの要素を取り入れた授業実践を行った。(教務部)				3.0						
	9 進路希望を100%実現します ・進路実現の実力を養成する課外学習、模擬試験、検定試験にも積極的に取り組ませます。 ・キャリア教育を充実し、保護者との連携を深め、きめ細かい進学・就職指導を実施します。	進路決定者数(2/6現在):国公立大8,私大60,公短2,私短6,看医専10,専門17,公務員13,就職31,未定53 ・長期休業中・平常課外とも参加生徒は一生懸命取り組んでいる。(進路指導部) ・課外、朝自習ともに取り組み状況は概ね良好であった。(3学年) ・目標設定ができない生徒が目立つので早急な対応が必要である。(1学年) ・夏季休業中にオープンキャンパスへ参加した生徒も見られた。(2学年)				3.1						